

Economic Monitor

2月までの輸出持ち直し確認だが... (2月貿易統計)

2月の輸出は増勢を強め、持ち直しの動きを確認。但し、大震災を受けた3月の減少もあり1~3月期の伸びは緩やかなものに留まると予想。震災の悪影響により、4~6月期は減少に転じる。一方、国内生産能力の低下や化石燃料需要の拡大を受けて、輸入は4月以降に増勢を強める見込み。

貿易統計によると、2011年2月の輸出額は前年比9.0%(1月1.4%)と伸びが高まり、季節調整値でも前月比4.4%(1月0.0%)と大幅に増加した。為替や物価変動を含まない当社試算の実質ベースでも5.2%と大幅に増加しているが、1月に3.1%と大きく落ち込んだ反動も大きい¹。一方、輸入額は前年比9.9%(1月12.1%)と高い伸びを維持し、季調値では1月まで3ヶ月連続で高い伸びを記録した後にも関わらず(11月2.4% 12月2.6% 1月3.6%)、2月も0.6%の小幅減少に留まっている(実質ベースでは1月前月比3.7% 2月3.9%)。

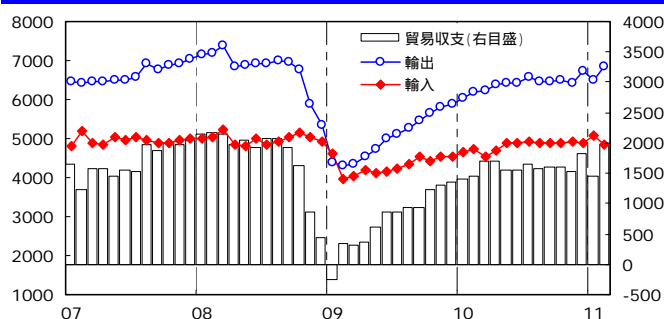
輸出は1月の低迷から脱し、2月に持ち直した。しかし、年初は通関日数が少ないことに加え、中国の旧正月の影響もあって、貿易額が振れやすいため、1・2月を均して見る必要がある。1~2月平均の実質輸出額は10~12月期を2.0%上回り(10~12月期前期比0.6%)、昨年後半の減速から脱し再び増勢へ復帰しようとする動きが確認できる(顕著な伸びとまでは言い難いが...)。一方、実質輸入額も1~2月平均が10~12月期平均を1.5%上回り(10~12月期0.3%)、持ち直しの動きを示している。

ここまでの記載は2月の状況であり、1~3月期については震災の悪影響を加味して考える必要がある。輸出については、3月11日の大震災により主要な輸出業種である自動車や電機において多数の工場が停止したため、3月は落ち込みが避けられない。但し、被災した港湾を別とすれば、既に輸出待ちとなっていた製品は無事に出荷された模様であり、1~3月期トータルの実質輸出が減少に転じるほどではないだろう。当社では、現時点で1~3月期の実質輸出を前期比1~2%程度と想定している。但し、4~6月期は工場被災や電力供給制約、サプライチェーン途絶により、減少が不可避である。

輸入については、被災した港湾での手続きこそ停止したものの、日本全体では大きな支障がなかったものと考えられる。そのため輸入の増加基調は3月も維持される見込みである。加えて、4月以降は国内生産能力の低下や化石燃料需要の拡大を受けて、輸入の増勢が強まる可能性が高い。輸出から輸入を控除した実質純輸出(輸出-輸入)は1~3月期に微増し、成長率に対して寄与なし、もしくは若干の押し上げ寄与となる見込みである。

2月の実質輸出を仕向け地別に見ると、最大シェアを占めるアジア向けが前月比4.9%(1月1.4%)と大きく持ち直し、米国向け(1月6.4% 2月1.2%)とEU向け(1.5% 6.8%)も増加に転じ

実質輸出入の推移(10億円、季調値、2005年基準)



(出所)財務省、日本銀行

¹ 2010年データの確定を受けて、季節調整をかけ直した。そのため、前回のレポートとは一部計数が異なる。

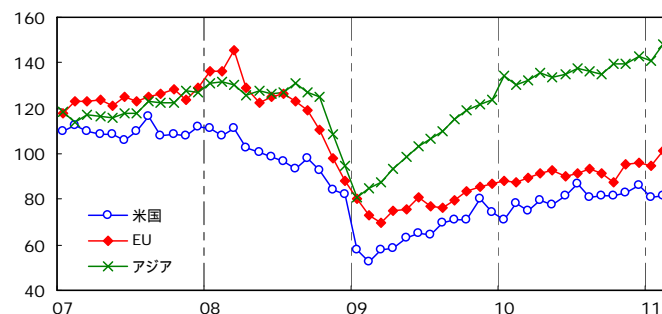
た。

アジア向けは1~2月平均が10~12月期を2.7%上回り、堅調である(10~12月期前期比3.1%)。2月は、特に中国向けが12.1%(1月0.7%)と急増し、全体を牽引した。設備投資向けが中心の一般機械(15.7%)や電気機器(13.8%)の伸びが著しい。ただ、自動車販売の減速を受けて輸送用機器(0.9%)は小幅の伸びに留まった。中国向け以外では、ASEAN向けが0.5%(1月0.8%)と3ヶ月ぶりに増加したものの、NIES向けは2.3%(1月2.5%)と2ヶ月連続の減少を記録している。NIEs向けでは、化学や金属関連が低調である。

米国向けは2月に増加へ転じたものの1月の落ち込みを取り戻すことはできず、1~2月平均は10~12月期を2.7%下回っている(10~12月期前期比1.0%)。2月は、自動車関連が中心の輸送用機器が前月比12.8%(1月17.5%)と大幅に増加したものの、設備投資向けの一般機械が10.5%と低迷し、全体では小幅の伸びに留まった。一般機械の落ち込みは、米国内の設備投資減速を受けた動きと考えられる。

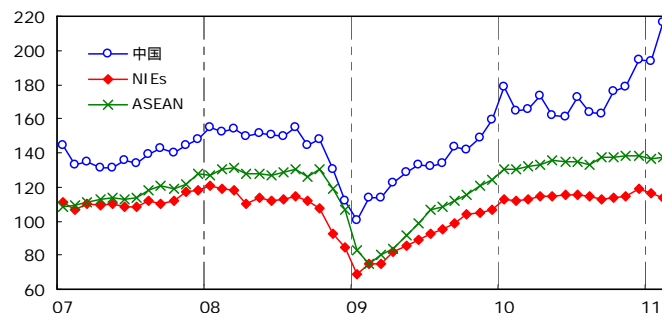
EU向けは1~2月平均が10~12月平均を5.2%上回っている。2月の内訳を見ると、輸送用機器が前月比12.3%と二桁増加を記録したことに加え、金属及び同製品(9.3%)や一般機械(2.2%)も堅調だった。輸送用機器は10~12月期も前期比3.3%と増加したが、振れの大きい船舶輸出が中心だった。しかし、2月の増加は、欧州域内での自動車販売底入れを受けた自動車輸出の増加が中心である。

地域別実質輸出の推移(2005年=100)



(出所)財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移(2005年=100)



(出所)財務省、日本銀行